

国際 NGO ワールド・ビジョン 報告書 (2024 年 6 月)
『Ration Cuts: Taking from the Hungry to Feed the Starving
(食料支援削減: 飢え死にしそうな人を救うために、空腹に苦しむ人から奪っている)』

<サマリー 日本語仮訳>

気候変動、紛争、そして新型コロナウイルスは今世紀最悪の飢餓危機を生み出し加速させ、現在 39 カ国 2 の子どもたちが飢饉に類似した状況に直面しています。3 各地での暴力や異常気象により家族が家を追われ、子どもたちは飢餓や栄養不良、児童労働、性的搾取、児童婚などのリスクにさらされています。近年も国際的な援助は増加傾向にあるものの、援助を必要としている人々が増え続けている現状の追い付いていないというのが現状です。

**「私は南スーダンに戻ろうと思っています。食べ物
がなく難民居住地で死ぬよりも、自分の国で死ぬ
方がいいからです。」**
-ウガンダにおけるフォーカスグループ・ディスカ
ッション 参加者の男性

2023 年、ワールド・ビジョンは 46 カ国で 2,000 万人以上の人々に食料と現金給付の支援を届け、6 そのうち 29 カ国の 1,600 万人以上の人々には国連世界食糧計画 (WFP) とのパートナーシップのもとで行われました。しかし、資金の減少とニーズの高まりに直面している今、人道支援機関は苦渋な決断を迫られています。

この報告書は、ワールド・ビジョンのグローバルな飢餓対応チームが、6 カ国において、食料支援と現金給付の不足の影響を受けているコミュニティで聴き取り調査を行った結果をまとめたものです。彼らは世界で最も脆弱な立場に置かれているにも関わらず、資金不足を理由に支援の対象から完全に外されたり、食料支援の削減をされた人々です。ウガンダのビディビディ難民居住地のように食料支援を大幅に制限されている家族、アフガニスタンのコミュニティのように圧迫された政治状況の中で生活している家族、ソマリアの気候変動による干ばつの影響から回復しようとしている家族は、特に脆弱です。私たちの調査で、多くの親や保護者が、食料支援の削減と長引く飢餓が、栄養不良、暴力、児童婚、児童労働、性的搾取の急増を引き起こしていると考えていることが分かりました。

本調査結果は、深刻な状況を報告しています。食料支援削減前、子どもたちは平均して 1 日に 2 食取っていましたが、2024 年 1 月に食事回数を尋ねたところ、ほとんどの家族が 1 回のみ、または全く食事をとれていませんでした。多くの保護者が、「食料支援が削減された結果、飢餓と栄養不良が増加した」と述べました。

難民や避難民の家族は、暴力や干ばつのために何度も移動を余儀なくされており、多くの場合、家畜や仕事、資産を置いていかねばなりません。十分な食料で子どもたちを養うために、学校や医療など他の必要を犠牲にしていることも多く見られます。また、大多数の保護者は「子どもたちを診療所に連れて行ったり、薬を買ったりするお金がないため病気が増えた」と述べています。難民の親や保護者の半数以上は「教育費を払えなくなったり、子どもに物乞いや仕事をさせるために学校を中退させた知人がいる」と述べました。また、家族に十分な食料を買うために、きれいな水や衛生用品の支出を減らしている人もいました。

「(食料支援削減の) 最初の影響は、家族からの厳しいプレッシャーでした。私たちの多くはすでに結婚させられています。家族にお荷物と思われることさえあります。」

-コンゴ民主共和国における 13~17 歳の少女のフォーカスグループ・ディスカッションにて

調査結果でさらに不安を掻き立てるのは、飢餓や危機的な経済状況によって子どもたちが児童婚、性的搾取、児童労働、人身売買のリスクにさらされているという認識が増えていることです。

アフガニスタンのバグリス県とウガンダのビディビディ難民居住地の少女たちは「夫に養ってもらうために友だちが結婚を強要されている」と述べました。ビディビディ難民居住地では、老若男女を問わず「少女は年上の男性と体の関係を強要されている」と述べました。全体的に、多くの人々が家庭内暴力の増加について言及し、その多くが女性や少女に対す

る性的暴力を含んでいました。少年に対する暴力も例外ではありません。コミュニティのメンバーは「少年たちがますます働いており、人身取引の危険や出稼ぎのため遠くに追いやられるリスクにさらされている」と述べています。

飢え、栄養不良、教育の中断、暴力の増加に苦しむ脆弱なコミュニティで何とか命をつないでいる子どもや大人が、家庭内で過度なストレスと緊張を感じているのは想像に難くありません。

ビディビディ難民居住地では、大人も子どもも自殺願望の増加について述べています。アフガニスタン、レバノン、ソマリアでのメンタルヘルスに関する保護者の回答は、メンタルヘルスの不調を発症するリスクが、一般的な有病率はさることながら、他の紛争地域での有病率すらもはるかに上回るレベルであることを示しています⁷。食料不安は親のストレス、不安、落ち込みや、子どもの恐怖を引き起こすことが研究結果で分かっており、それらが複合的に影響していると考えられます。

「子どもたちに食べ物を与えることができず、ストレスで自殺する親もいる。」
-ウガンダ、女性、保護者

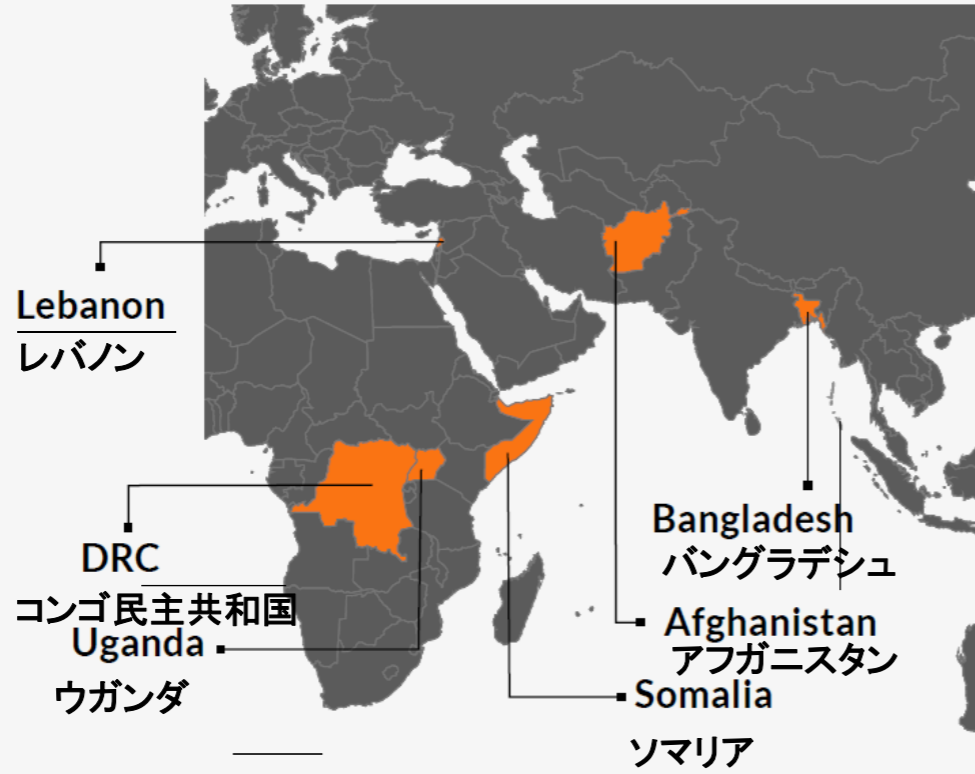
食料支援の削減が2024年も増加し続けると予想されていることが、本調査結果をより深刻なものにします。世界的な飢餓危機のただ中での食料支援削減は、個人を超えて家族やコミュニティ全体に影響し、子どもたちの教育、医療、保護などへのアクセスにも波及することを意味しています。子どもたちとその家族が生き延びるために必要している食料を、適切な量と必要な栄養を含んだ内容で届けるため、政府と人道支援機関は協力して取り組むことが必要です。また、子どもたちが学校に戻り、家族が再び持続可能な生計を立てることができるようになるための長期的な支援も同様に必要不可欠です。世界が「もう十分だ」と言うべき時は今です。飢餓はもう十分。栄養不良も十分。子どもたちは、本来予防できるはずの飢餓に関わる原因で命を落としています。これは緊急事態です。子どもたちに、適切な量と必要な栄養を含んだ食料を、必要なタイミングで届けるための支援活動は、どの緊急人道支援においてもなされるべきなのです。



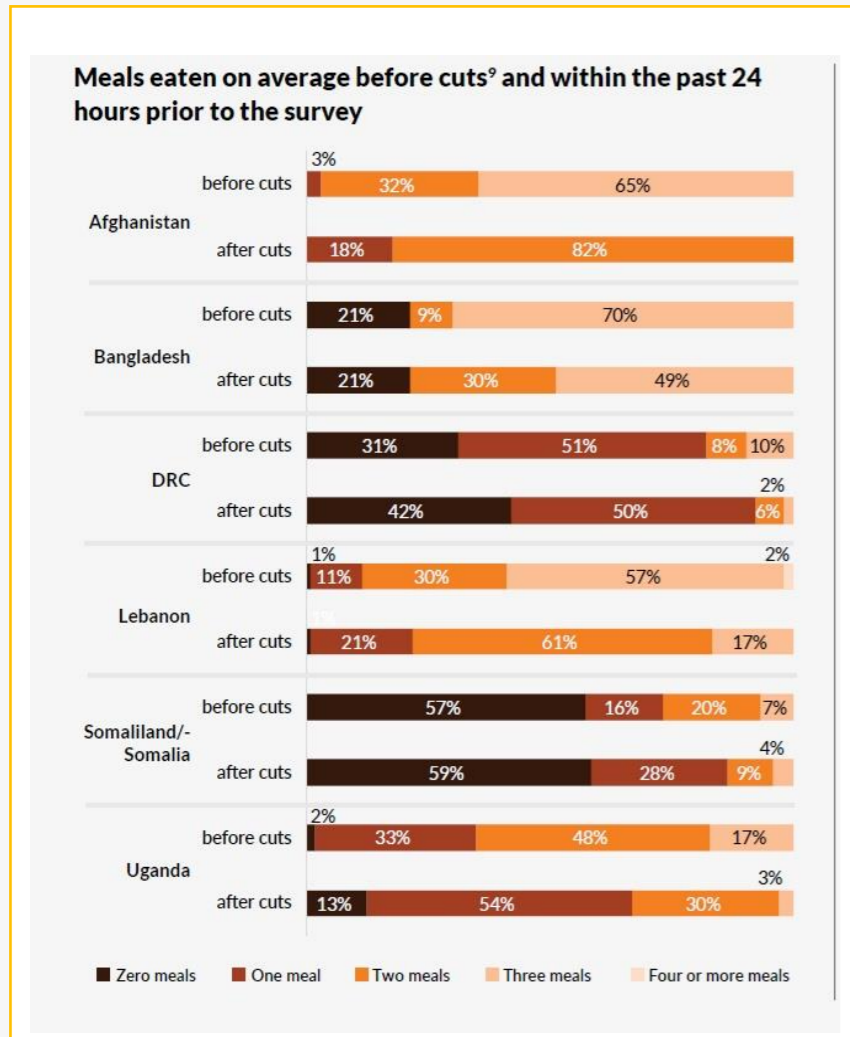
息子を抱く国内避難民のザハブさん。故郷ムシャキ村の紛争で夫を亡くした後、コンゴ民主共和国ゴマ郊外の避難民キャンプで暮らしています。© World Vision/Rodrigue Harakandi

主な調査結果

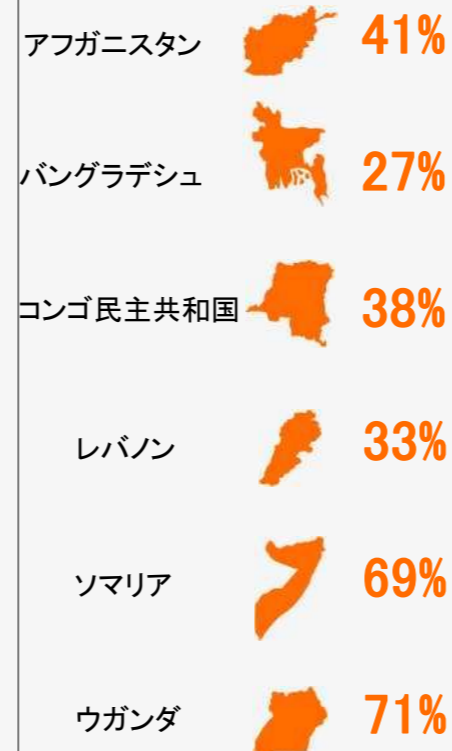
食料支援の削減によって過去3カ月間でどのような影響を受けたかを以下のグループの人々に尋ねました。
 アフガニスタン: バグリス県に住む家族
 バングラデシュ: コックスバザール県で暮らす避難民
 コンゴ民主共和国: カサイ州とタンガニーカ州で暮らす国内避難民、難民、ホストコミュニティの家族
 レバノン: 難民とホストコミュニティの家族
 ソマリア: 国内避難民とホストコミュニティの家族
 ウガンダ: ビディビディ難民居住地の難民



食料支援削減前と削減後(回答した時からさかのぼって24時間以内)に食べた平均的な食事回数

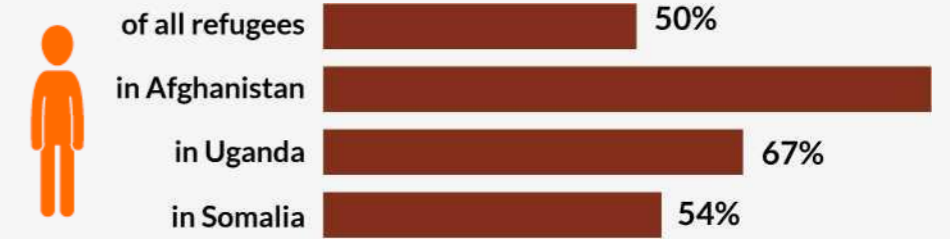


過去4週間で「家族の中に1回も食事をとらずに1日を過ごした人がある」と答えた世帯の割合



飢餓危機の深刻化

保護者の42%が「食糧支援の削減は子どもたちが飢餓と栄養不良に苦しむ一因になっている」と回答しました。



68% 難民の保護者の3人に2人が「食料支援削減のために子どもたちが家庭で十分な食事を与えられていない」と感じていました

回答者の39%が「妊娠中あるいは授乳中の女性も自分の食事を減らして、男性と子どもたちの食事にまわしている」と述べました

保護者の51%が家族全員の食事を減らしたと回答

回答者の61%が「食料支援削減によって妊娠中あるいは授乳中の女性が特に栄養不良のリスクにさらされている」と述べました

保護者の35%が食事の質を落としたと回答

学校に通えていない子どもたち

食料支援削減の影響を受け、子どもの教育費を払えず、学校に通わせることができていない家族の割合が最も高かったのは

アフガニスタン (96%)、ウガンダ (81%) レバノン(69%)

難民キャンプや難民居住地では

保護者の62%が「子どもの教育費を払えなくなった知人がいる」と回答しました

54%が「自分の子どもに物乞いや仕事をさせるために学校を中退させた」と回答しました

難民の保護者の3人に2人(66%)が、「子どもが空腹すぎて学校を欠席した」と回答し、(71%)が「子どもが空腹すぎて授業に集中できていない」と回答しました

危険にさらされている子どもたち

世界的な飢餓と経済危機により、子どもたちは児童婚、性的搾取、児童労働、人身取引の危険にさらされています。

コミュニティメンバーの3人に1人 **(33%)** は、食料支援削減後「家庭内暴力、ネグレクト、暴力を受ける少女や少年が増えている」と回答しました

保護者のほぼ3分の1 **(30%)** が「食料支援の削減が少女たちを早婚に追い込んでいる」と回答しました



ウガンダ **59%**
アフガニスタン **97%**



ウガンダの **75%** の家族が「少女たちは若くして妊娠し、学校を中退している」と報告しました

63% の難民の家族が「食料支援削減後に児童労働が増加した」と述べました

調査対象となった保護者のほぼ半数 **(45%)** は「児童労働が増加している」と感じており、下記2カ国では「少年たちがその影響をより強く受けている可能性が高い」と感じていました。

ウガンダ 85% **アフガニスタン 94%**

アフガニスタンとソマリアの保護者の5人に2人 **(39%)** が「少年たちが人身取引の増加の影響を受けている」と感じていました

家庭内で高まるストレスと暴力

どうにか生き延びるために、大人も子どもも過度なストレスと緊張の中で暮らしています。

調査対象となった成人の約3人に2人 (63%) が「あまりの絶望感に、もう生きていたくないと思っている」と回答しました

13% の成人が「もう生きていきたくないと常に思っている」と回答

50% が「ほとんど、あるいは時々そう思っている」と回答

長期的な紛争や暴力にさらされている人の **22%** がメンタルヘルスの問題を抱えるリスクがあります

アフガニスタンで「メンタルヘルスの問題を抱えている」と回答した人の割合は他と比べて約4.5倍高く、ほとんどの成人 **(97%)** がメンタルヘルスの問題を抱えるリスクにさらされていました。

レバノンでの割合は4倍 **(89%)**、ウガンダでは3.5倍 **(79%)** でした

回答者(親や保護者)の **29%** が「過去3カ月で家庭内暴力の増加を感じている」と回答しました

保健衛生の優先度が低下

食料支援削減後、家計のやりくりで苦しむ家族は医療やきれいな水、衛生設備への支出を減らしており、子どもたちはより病気にかかりやすくなっています



41% の家族が「子どもが病気にかかる回数が増えた」と回答しました

アフガニスタンの大多数の家族 (90%) が、子どもたちが病気に苦しんでいる原因を以下のように述べています



「子どもの医療費を減らしていそうな知人がいる」と回答した保護者の国別の割合は以下の通りです。



「衛生用品ときれいな水への支出を減らしている」と複数の家族が報告しています

10% の家族が石鹸や生理用品の購入を削減

5% の家族がきれいな水を買っていない

食料支援の削減が子どもたちに与える影響について、コミュニティのメンバーから報告された主な懸念は以下の通りです



56% の子どもたちは、空腹や食料不足のために学校で集中できていない



54% の子どもたちは、家庭で十分な食事を与えられ



53% の親/保護者が子どもの教育費を払っていない



52% の子どもたちが空腹を理由に学校に行かない



50% の親/保護者が子どもの医療費を削減している



45% の子どもたちが労働に従事するようになった